

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて「自主・自律」の心を持ち、「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。

- 1 将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送ることができる学校をめざす。
- 2 普通科専門コース制の学校として、各コースの特色を生かし、自己の興味関心を発展させ、得意技のレベルにまで育む。
- 3 社会人として必要なコミュニケーション力・プレゼンテーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着、発展的学力の育成をめざし、学力の向上を図る。

- ア 授業規律の徹底を図り、授業準備、授業への集中、ノートの取り方等きめ細かく指導し、生徒が授業を第一義と考えるようにする。
- イ 双方向性に富む授業（主体的・対話的で深い学び）を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。
- ウ 学力の定着を図るために宿題・課題（質・量・教科バランスを考慮）を課し、学習の振り返りを行う。
- エ 家庭（学校外・授業外）学習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。
- オ 授業外校内学習の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム（会議室）、アドバンス学習室（視聴覚室）の積極的な活用を行う。
- カ 効率的に「朝学」に取組み、漢字・英単語の学習、社説の読解等、基礎学力の向上を図る。

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、学習を振り返る場面やグループワーク・班別討論をどこに設定するか、教員の発問に対し生徒が考える場面をどの様に組み立てるかを具体的に考える事により「主体的・対話的で深い学び」を実践する。
- イ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業改善を行う。
- ウ ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導方法の工夫に努める。

(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成し、社会で生き抜く力と自己表現力を身につける。

- ア 教科授業に加えて学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
- イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。
※学校教育自己診断「…宿題や課題が適度に出される。」の肯定率を令和4年度に67%にする。（H29年度63%、H30年度80%、令和元年度65%）
「…予習や復習が必要である。」の肯定率を令和4年度に57%にする。（H29年度28%、H30年度55%、令和元年度55%）

(4) 生徒の進路実現の支援

- ア 外部講師による土曜講習（令和2年度実施回数の整理）、夏季勉強合宿を継続する（令和2年度1・2年生参加募集開始）。
- イ 進路希望に合わせた情報提供と進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進学意識の醸成に努める。
- ウ 模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と現実とのギャップを的確に理解する体制を作る。
※4年制大学進学率60%を維持する。
※学校教育自己診断における「…進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を令和4年度67%にする。（H29年度68%、H30年度75%、令和元年度65%）
同様に、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率を令和4年に80%にする。（H29年度80%、H30年度82%、令和元年度79%）

2 自らの将来を見据え、将来の寄って立つぶれない軸を形成する取組みの推進。

(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進

- ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探求の時間」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。

(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成

- ア 様々な分野・年齢の講師による講演等計画的な人権教育を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するためにいじめに関する校内組織を中心に組織的に取り組む。
- イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。
- ウ 集団活動を通して、他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 組織的な統一した遅刻指導を行い、遅刻に対する生徒の意識の改善を図る。
- イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行。
- ウ 「挨拶」「服装」「頭髪」「規律」「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。
※遅刻平均総数を令和4年までには、前年度より下げる。（H29年度2446回、H30年度2439回、令和元年度2647回）

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。
- イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ・生徒の学習の成果の発表の機会を設ける。
- ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
- オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、海外修学旅行・語学研修・海外の高校との交流を促進する。
※学校教育自己診断の「学校行事における肯定率」を令和4年度も「60%台を維持」にする。（H29年度51%、H30年度56%、令和元年度65%）

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む

(1) 分掌部会等の開催

- ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の見える化を行う。業務の継承ができるように、業務マニュアルを含む総括文書等を残す。
- イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。

(2) 教員の働き方改革に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者のアンケートの回収率が、83.6%と過去2年より6ポイント以上も上回ったことは非常に良かったと思う。以下、アンケート中で顕著な数値の変化があった項目について考察した。</p> <p>・【生徒用】では、「本校に入学して良かった」の肯定的回答が77.5%、「かけがえのない友人に出会えた」は86.2%で学校生活における満足度は高いことが伺える。また、「授業で、自分で考える力が身についた」の肯定的回答は67.2%、「授業で解答や発言を求められる機会がある」は85.1%、「授業でコンピュータ等のICTを活用している」は77.7%と3年間で最も高い数値となっており、授業に対しては十分とは言えないが一定の評価がされていると考えられる。</p> <p>・【保護者】では、「教育情報について、提供の努力をしている」は73.7%、「教育活動の具体的な内容について、ホームページ等で情報提供している」は75.7%と比較的高い数値となっているが、「PTA活動が活発に行われている」は53.7%、「体育祭や文化祭の学校行事が活発に行われている」は69.9%で昨年度比10ポイント以上も低下しており、コロナ禍における評価ではあるが、十分な理解が得られているとは言えない。情報発信については検討の余地があると考えられる。</p> <p>・【教員】では、「授業にICT活用を取り入れる工夫をしている」は63.2%、「生徒指導が保護者や関係機関と連携体制ができています」は49.1%、「進路指導等において、家庭との連携が充実している」は59.6%と何れも昨年度比で15ポイント以上下がっており、各学年や分掌等での議論も踏まえた対応が今後の課題と考えられる。</p>	<p>【第1回学校運営協議会】(令和2年7月10日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門コース制の1期生が卒業したが、大学や専門学校等を自分で調べ、体験し、進路を決めていく生徒が多いという印象で、自分の人生を自分で選択しているので成功だった。 ・受験のためだけの学力をつけるのではなく、知的な扉を開ける取組みや職業を知る取組みが必要。 ・少子化が進んでいくので、中高連携を大切に、本校の魅力を伝えて欲しい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、ストレスを抱えている場合もあるので、心のケアを行い、子どもたちを支援してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響下で、学力や進路をどのように保障するのが問われている。 <p>【第2回学校運営協議会】(令和2年11月6日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成とあるが、基礎学力がどう定着しているのかを知りたい。また年度による学力の推移をどう判断しているのか。 ・授業アンケートの集計結果の活用方法は議論されているか。 ・マスクを着用していない生徒が見受けられる。冬場の換気対策はどのようにするのか。 <p>【第3回学校運営協議会】(令和3年2月実施)</p> <p>[学校経営計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着に重点をおいて取り組んでいる点については、肯定率も高く、評価できる。 ・進学についての情報提供は、学年通信以外にも民間の受験資料等の提供が大切。 <p>[学校教育自己診断]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」に対する保護者の肯定率の低い点が気になる。 ・「コロナ禍」における、生徒や保護者、教職員の情報共有が必要である。 <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学合格者数の低下については詳細な検証が必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 学力の向上(基礎学力の定着、発展的学力の育成) ア 授業規律の徹底、授業第一主義の実践 イ 双方向性に富む授業の実施。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着 宿題・課題</p> <p>エ 学校外・授業外学習の取組み。</p> <p>オ 授業外校内学習の充実。</p> <p>カ 「朝学」で基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ア 「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</p> <p>イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動により授業改善を行う。 ウ ICT機器を効果的に活用し、指導方法の工夫に努める。</p>	<p>(1) ア 授業規律の徹底を図り、授業準備、授業への集中、ノートの取り方等きめ細かく指導し、生徒が授業を第一義と考えるようにする。 イ 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着を図るために宿題・課題(質・量・教科バランスを考慮)を課し、学習の振り返りを行う。 エ 家庭学(学校外)習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。 オ 授業外校内学習の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。 カ 漢字・英単語の学習、社説の読解等、「朝学」に効率的に取り組む、基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) ア 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動を実践し、現状をより良いものにして行く。 ウ 実施できる教科から、ICT機器を利用する授業を増やす。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート結果における「授業に対するあなたの取組」令和2年度95%を維持する。 イ 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率79%(R1:78%) ウ 同自己診断の「本校の授業では、宿題や課題が良く出される。」の肯定率68%(R1:65%) エ 同自己診断の家庭学習時間の昨年度よりの増加。 オ 4年制大学進学率60%を維持する。 カ 生徒向け学校教育自己診断の「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している。」の肯定率令和2年度65%(R1:64%)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率79%(R1:78%)に、また「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率を72%(R1:71%) イ 授業アンケートの振り返りシートを全員提出。 ウ 学校教育自己診断の「本校の授業(実習・演習含む)では、コンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定率74%(R1:73%)</p>	<p>(1) ア 第1回授業アンケート95%、第2回授業アンケート93%。平均では94%だが、授業中心として基礎学力の定着を図っていききたい。(△) イ 「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率85%となっているが、更なる授業改善に取り組んでいききたい。(◎) ウ 「本校の授業では、宿題や課題が良く出される。」の肯定率74%となっており、目標は達成できていると考えられる。(○) エ 家庭学習の時間を1時間以上確保している割合は31%で、昨年度と同じである。(△) オ 4年制大学進学率は56.5%であるが、更なる講習等の充実を推進したい。 カ 「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している。」の肯定率61%で、目標に達していない。(△) (2) ア 「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率85%「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率が72%となっている。双方向に富む授業改善を進めていききたい。(○) イ 第1回めの授業アンケート実施後に「振り返りシート」を全員提出。第2回めも実施予定である。(○) ウ 「本校の授業(実習・演習含む)では、コンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定率78%となっているが、次年度は更なる活用を進めていききたい。(○)</p>

<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会で生き抜く力と自己表現力の育成。</p> <p>ア 教科授業に加えて学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。</p> <p>イ 英語の4技能 (4) 生徒の進路実現の支援 ア 外部講師による土曜講習、夏季勉強合宿の実施。 イ 進路希望に合わせた情報提供、進学講習等早い段階での進学意識の醸成。 ウ 模試の計画的・積極的受験。</p>	<p>(3) ア 授業に加えて教科、学年、総合的な探求の時間等、学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 授業において聞く・話す・読む・書くをバランスよく育成する。</p> <p>(4) ア 土曜講習はこれまでの20回コースと30回コースの2本立てだったものを20回コースに精選。また、英語は学習効果を一層高めるため習熟度別にする。 イ 計画的な進路 LHR 等を活用し、取組みとして、大学出願前に志望校の「過去問」への取組み、1・2年の希望者の「夏季勉強合宿」参加等新しいことを始める。</p> <p>ウ 実施時期を考え、年間計画を立て、適切な模試の受験を促す。</p>	<p>(3) ア、イ 学校教育自己診断の「発表する力」令和2年度56%(R1:55%)、「相手とコミュニケーションする力」の肯定率64%(R1:63%)、「自分で考える力」肯定率62%(R1:61%)</p> <p>(4) ア 進学実績の4年制大学進学率60%維持。</p> <p>イ 学校教育自己診断の「本校では進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率66%(R1:65%)</p> <p>ウ 受験人数を成果指標とはしない。結果が自己分析に繋がればよい。</p>	<p>(3) ア、イ 「発表する力」令和2年度61%「相手とコミュニケーションする力」の肯定率67%「自分で考える力」肯定率67%となっており、目標は達成できていると考える。(◎)</p> <p>(4) ア 進学実績の4年制大学進学率56.5%。外部講師による土曜講習は実施。勉強合宿はコロナの影響により中止。ワンデー勉強合宿を1・2年生も含めて10月31日に実施、27人が参加。令和3年3月29日にも実施予定。校内の土曜講習を今年度より実施し、8講座28名が受講。(○)</p> <p>イ 「本校では進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率69%と数値は達成しているが、十分とは言えない。(○)</p> <p>ウ 外部模試については例年通りに計画的に実施。希望者による模試の受験者数は倍増しており、進路情報の提供が生徒の意識向上に寄与したと言える。今後は、模試の活用に力を注いでいきたい。(○)</p>
<p>2 将来の寄って立つ軸を形成する取組みの推進</p>	<p>(1) キャリアデザインの推進 ア 「キャリアデザイン」を推進する。</p> <p>イ 職業意識の醸成</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 計画的な人権教育の継続し、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事で達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進 ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探求の時間」（必ず調査・研究・発表のステップを踏む）等を活用して推進する。</p> <p>イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 3年間を見通した計画的な人権教育を継続し、様々な分野・年齢の講師から講演を聞き、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の令和2年度の肯定感80%を維持する。</p> <p>イ 同上</p> <p>(2) ア 3年間の計画的な人権教育計画作成の継続。</p> <p>イ 体育祭・文化祭・学校説明会の運営に生徒が関わる体制を維持する。</p>	<p>(1) ア、イ 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定感79%となっており、次年度以降はキャリアデザイン教育に更に力を注いでいきたい。(△)</p> <p>(2) ア 3年間を見据えた人権教育計画を継続して作成するとともに、9つに分けて実施したテーマ別人権総合学習では、様々な分野の講師の方々に講演等していただき、生徒の人権感覚を養うことができた。(○)</p> <p>イ 文化祭は中止。体育祭、2回の学校説明会(10月と12月)では生徒主体で実施することができた。(○)</p>

府立豊島高等学校

<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の育成、通学マナーの向上とあいさつ運動。</p> <p>ア 組織的な統一した遅刻指導。</p> <p>イ 挨拶の励行。</p> <p>ウ 全教員の指導による生徒の規範意識の高揚。</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。</p> <p>ア 部活動充実</p> <p>イ 学習成果の発表</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化</p> <p>オ 海外修学旅行・語学研修・海外の高校との交流の促進。</p>	<p>(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。</p> <p>ア 組織的な統一した遅刻指導を徹底し、「遅刻はダメ」という意識の醸成をする。</p> <p>イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。</p> <p>ウ 「挨拶」・「服装」・「頭髪」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。</p> <p>イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ・生徒の学習の成果やの発表の機会を設ける。</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。</p> <p>オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、海外修学旅行・語学研修・海外の高校との交流を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 数字のみにこだわらず、遅刻総数前年比減に向け取り組む。指標は1人でも前年比減。</p> <p>ウ 学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導には納得できる。」の肯定率 52% (R1:51%)</p> <p>(2)</p> <p>ア、イ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率 58% (R1:65%)</p> <p>ウ 実施回数全クラブで30回。</p> <p>エ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率 58% (R1:65%)</p> <p>オ 海外修学旅行・語学研修を継続する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新型コロナウイルス感染症による休校の影響もあり、前年度との比較は困難である。(一)</p> <p>イ 生徒会を中心に挨拶運動を実施している。(○)</p> <p>ウ 「学校生活について先生の指導には納得できる。」の肯定率 54%と目標は達成しているが、数値的には満足のいくものではない。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア、イ 「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率 70%であり、引き続き学校行事等に生徒の活躍の場を設定していきたい。(○)</p> <p>ウ 実施回数全クラブで30回程度実施。野球部、男女バレー部、男女バスケットボール部がボランティアで清掃活動を行っている。(○)</p> <p>エ 「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率 70%であり、更に満足度を高めていきたい。(○)</p> <p>オ 海外修学旅行・語学研修は中止。但し、修学旅行で交流する予定であった学校に対しては ICC コースの生徒が作成した”INTRODUCTION of GUAM”を送付。(○)</p>
<p>4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり</p>	<p>(1) 「分掌部会」等の開催</p> <p>ア 業務の平準化分掌内業務の「見える化」を行う。業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。</p> <p>イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>ウ 働き方改革の実践</p>	<p>(1) 「分掌部会」等の開催</p> <p>ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の「見える化」を行う。業務の継承ができるように、業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。</p> <p>イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>ウ 業務削減に繋がることを実践する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各分掌で1年の締めくくりとして総括ができていくか。次年度に業務を引き継ぐ体制が取れているか。</p> <p>イ 諸課題の精選、検討、解決の流れを実践する。</p> <p>ウ 残業時間を軽減する。</p>	<p>ア 今年度は各分掌に総括文書を作成し、次年度の分掌の主体的な活動に活かしていきたい。(○)</p> <p>イ 各分掌が主体的に取り組めるような体制作りを推進しているが、未だ十分とは言えない。(△)</p> <p>ウ 4月～12月では234H3M(昨年同時期)だが、コロナ禍の影響もあり単純比較は困難であると言える。(○)</p>